

2019 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生外語観光&製菓専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生外語観光&製菓専門学校の2019年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2020年 1月 31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 下村 豪

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 12 -
	基準 6 教育環境	- 13 -
	基準 7 学生募集	- 15 -
	基準 8 財務	- 16 -
	基準 9 法令遵守	- 17 -
	基準 10 内部質保証	- 18 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 19 -
	基準 12 国際交流	- 20 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

教育理念

「志と感謝心」を持ち、変化・多様化していく世の中を生き抜くことができる「業界の専門知識・技術」及び、「社会人基礎力」を備えた混在を育成します。

教育目標

エアライン科

航空運輸業界の接客サービスに必要な語学力、専門知識を身につけ、更にはホスピタリティマインドを備えた人材を育成する

エアポート科

空港施設の業務に必要な専門知識、資格、技能に加え、将来、業界人としてプロ意識をもち幅広く活躍できるマインドを備えた人材を育成する

ブライダル・ウェディング科

ブライダル業界に必要な技術や知識、検定資格を身につけ、常に高い志と感謝の気持ちを持ち続けながら現場で活躍できる人材を育成する

ホテル・リゾート科

国内外のお客様をおもてなしするために、ホテルの各部署に必要な専門的技術や知識、語学力を併せ持ち、現場で即戦力として活躍できるホテリアを育成する

国際ホテル・リゾート科

日本のホテルで働くために必要な日本語を学ぶとともに、日本の文化やホテル業界の基礎を理解し、将来日本の企業で活躍できる人材を育成する

英語コミュニケーション科

国際的視野を持ちグローバル社会に対応できるコミュニケーション能力や英語運用能力を身につけ、国際貢献を積極的に果たす人材を育成する

海外ビジネス科

英語、第2外国語、高度なITスキルを習得し、国内外を問わずグローバルなフィールドで活躍するビジネスパーソンを育成する

トラベル科

多様化する観光業界で求められる専門知識・技術及び社会人基礎力を兼ね備え、自らが旅の魅力を発信し、観光業界において活躍・貢献、発展へ寄与できる人材を育成する

製菓パティシエ科

製菓分野で必要とされる知識・技術のみならず、衛生管理に関わる知識と社会人として必要なマナーとコミュニケーション能力を高め、業界や地域社会の発展に貢献できる人材を育成する

日本語科

日常的な場面における日本語のコミュニケーション能力や日本語の知識・技能に加えて、自国と乃本の両方の文化を理解し、異文化に対して柔軟な見方ができ、文化の違いを超えて交流できる人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ①学校独自の教育理念、育成人材像を周知する。
- ②カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの継続検証を行う。
- ③教員の実務に関する研修を実施する。

2. 取組み状況

- ①ホームページ等で社会的公表を行ったことに合わせて、職業実践専門課程委員会等で関連業界にも教育理念、育成人材像について周知を図った。
- ②カリキュラム策定時やシラバス作成時に書く教員、学校構成員に上記ポリシーに基づく運用を指示した。また便覧記載の内容を学生へ説明する時間を設けた。
- ③管理職による運営会議等でセミナー等の案内をし、部門長から各部門員に参加を促進した。

3. 総括（成果と課題）

- ①成果として、明確化した学校独自の教育理念や育成人材像が、各ステークホルダーに浸透し理解いただくことができた。
- ②課題として、ポリシーを教職員それぞれがまだ全員が十分把握できておらず、学校運営や教育に活かしているところと活かしきれないところがある。
- ③専門分野のセミナー、研修などの情報収集・参加を積極的に行うとともに、企業と連携した研修を計画していく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人及び学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像は「学生便覧」に明文化をし、学生・教職員・非常勤講師にも配布し共有を行っている。また3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）も「学生便覧」に明文化し共有している。各ステークホルダーにはホームページを通して公表を行った。

【課題】

在校生に対しての周知が十分ではなかった。

【今後の取組み】

次年度は全員に対して便覧で確認ができるよう体制を整える。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の運営方針は、法人及び学校の理念に基づき定めており、教職員には定期的な会議を通して周知を行っている。事業計画は運営方針に基づき策定され、教職員全員に周知共有している。学校運営の組織や意思決定システムは、学科及び学年に分けて編成されており、適正な運営と迅速な判断を行っている。教務会議を始めとした各種会議体は、定例・非定例を柔軟に開催し、必要に応じた情報共有と意思決定の場として活用している。学生に関する情報管理システムと業務処理に関するシステムは、法人内担当部門が主導で構築されており、定期的な改善活動が行われ、活用しやすいシステムへ改善されている。学校法人として教職員の採用、人事制度、各規程等は整備され、適正に運用している。事務組織については、法人としての事務組織、福岡キャンパス内事務組織と学校独自事務組織が存在しており、いずれも適切な人員配置の基、十分に機能している。学校を取り巻く環境が大きく変化する中、事務職員の能力向上を図るための方策は未だ十分とは言えず、今後も取組みに改善の余地がある。

【課題】

時代や社会システムの変化と共に、学校を取り巻く環境も変化しており、事務職員がより必要な専門的な知識を身に付ける必要性が高まっている。

【今後の取組み】

今後の学校運営に必要となる知識を纏め、法人本部とも連携し適切な内部・外部研修や勉強会を計画し、年間スケジュールに落とし込んで実施をする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

麻生塾全体の教育理念をもとに麻生外語観光&製菓専門学校としての教育理念を掲げ、各学科の育成人材像を策定にしている。育成する人材像の達成に向け、教育課程編成委員会である企業・団体と情報共有を定期的に行い、企業・業界ニーズにこたえる教育課程の編成と実施方法について協議している。昨年度より便覧に教育理念、育成人材像、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを掲載し、学生及び学校構成員に周知した。

【課題】

現在、アドミッションポリシーとディプロマポリシーは、学校全体として策定し、カリキュラムポリシーは学科ごとに策定している。8学科の特色に合わせた教育体系の編成を考えると、学科ごとに検討する必要がある。

【今後の取組み】

学校・学科の現状を整理分析し、社会動向及び業界動向からこれからの教育体系を考える情報を集め、あらためて養成したい人材像・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを学科ごとに作成する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程編成委員会及びカリキュラム会議をもとにカリキュラムを作成し、業界のニーズに合った実践的な職業教育を提供するために見直しを図っている。授業科目を体系的に整備し、科目ごとシラバス・コマシラバスと連動させ、授業目的の学生への周知や実施状況の記録ができています。キャリア教育については、就職実務やGCBの授業を設けるとともに、インターンシップを通して、学生の社会的・職業的自立に向け必要な能力や考え方の習得・育成を促している。リメディアル教育としてASOドリルを導入し、年3回のコンテストの実施を行い、学生たちの学習意欲向上と継続に向けて取り組んだ。

【課題】

今年度よりシラバス書式が変更になり、シラバスの確定に一部遅れが生じた。

【今後の取組み】

あらたなシラバス作成指針をもとに新年度用のシラバス作成勉強会を実施する。
また非常勤担当科目は、事前に担当学科が概要を準備することでチェックにかかる時間を軽減していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

前後期各1回授業ミニアンケート、授業アンケート（常勤・非常勤）を実施し、客観的評価を得るようにし、管理職によるフィードバックを行っている。今年度、前期は外部有識者、後期は校長代行による授業見学を行い、評価票でフィードバックを行った。新任教員には、法人による研修を実施すると共に、チューター、部門長による授業アドバイスをし授業力向上に努めている。

【課題】

アンケート・評価票の結果をもっと有効活用する必要がある。

【今後の取組み】

教育推進グループと連携を取りながら、アンケート・評価票の分析を行い、授業力向上につながる研修等を計画的に実行できるよう検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	A

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

教科ごとに作成されているシラバスに則り、適切に授業評価をしている。期末試験・授業内評価を経て適正に単位認定している。また進級・卒業判定についても、学則及び学校規定に基づき担任、管理職等複数の確認を行い実施している。

【課題】

今年度からシラバスに記載する評価方法が細かくなっているため、各教科で設定した到達目標にそった評価結果になっているか確認する必要がある。

【今後の取組み】

前期成績のチェックは完了。後期成績のチェックは2月中旬までに、担任・管理職によるダブルチェックを行う。また次年度対策として、非常勤講師会で確実な伝達を行うとともに、日常的に担任と非常勤担当教員が中心となって評価状況の把握をし、適切な成績ができているか確認をする。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮し、必要な教員組織を構築している。新任教員には同部門内でチューターを設置し業務理解をしている。また管理職による運営会議や教務会議を定期的実施し、課題・問題点の情報共有を図り、学校全体の教育体制の活性化に取り組んでいる。法人として計画的な教職員研修が実施されており、また学校としても専門分野研修を実施している。

【課題】

業界団体が主催する教員研修には参加できているが、企業と連携した研修は業界の位置づけによって、不十分な分野がある。

【今後の取組み】

校長代行・管理職が教育課程編成委員や企業との情報交換を行い、教員による研修・インターンシップの計画をたてる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

教育理念・育成人材像に基づき教育活動、学生指導を行っている。教育の製菓である検定取得、成績、コンテスト結果、退学者等に目標数値については事業計画に盛り込み教務会議等で共有している。各月作成のクラス運営報告書、部門会議等でも現状把握を行い、改善を図っている。各クラスの状況は教務会議で共有をしている。卒業生の状況把握は、就職担当者が企業人事担当者より情報確認をし、担任へ共有している。卒業生情報は教育活動や学生指導に活かしている。

【課題】

学生に多様化に伴い、検定取得に向けた指導や日々の学習指導が難しくなっている。
また、家庭環境の複雑化や経済的な理由も加わり退学防止低減が難しい事例が増えている。

【今後の取組み】

検定取得や日々の学習指導は、カリキュラム・指導法の見直し、補講の実施で多様な学生に対応する。また担任だけでなく、教科指導の教員とも協力しながら、学生一人一人の変化を見逃さないよう、適宜学生ガイダンスと家庭への連絡を取る。必要に応じキャンパスライフサポートセンターと協力しながら、学生の問題を解決し、退学防止に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	A

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

専任教員をクラス担任として配置し、学習面や就職活動のサポートだけでなく生活面に関するアドバイスも含めた支援を個別のガイダンス等で行っている。保護者への連絡も適宜行っており、日常的には、出席や学習状況についての電話連絡や三者面談等の実施や、また就職活動についての保護者会の実施などにより、学校と保護者の間での情報共有を図っている。

また、学内にはキャンパスライフサポートセンターが設置されており、担当者による学生相談後、健康問題（身体的・精神的）であれば校医・専門カウンセラー、就職相談であれば就職担当者、経済的相談であれば学生課担当者にて対応している。就職支援では学内に就職担当を配置し求人票獲得、学内企業セミナー・選考会誘致など、希望する就職ができるよう支援を行っている。

留学生の増加に伴い、国際学科担任会議をスタートさせたことにより、学校間での情報共有ができクラス運営の問題点解決につながるなど、留学生のサポート体制が強化された。

【課題】

学生の健康管理において、保健室のベッド数増などの整備が必要である。

【今後の取組み】

他号館の学校とも協力し、急病学生を収容できる保健室でのスペースの確保を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

事業戦略グループと学校にて担当を分け管理している。法令に則った定期点検を実施し、必要に応じて補修・修繕をおこない、学生が安全に利用できる環境を作っている。各学科の専門教育に必要な設備・機材についても設置しており、知識・技術の修得が出来る環境を整えている。またキャンパス内に総合図書館を設置している。規定やルールを定め学生便覧に文書化し、および教室内に掲示し使用方法について学生への周知徹底を図っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

HR教室数の増加に伴い、テレビやDVD、ロッカー等の授業機材、教室環境の整備を順次進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

実践教育が重要である本校では、企業との連携により企業実習（インターンシップ）を実施している。教育効果を上げる為に企業と相談、打ち合わせの上、実習内容を確定し、覚書を取り交している。実習前には、学生へ事前教育を行い、安全管理・リスク対応などの指導を行っている。

海外研修においては、教員が引率し必要な保険加入を行っている。研修前に説明会を実施し、必要に応じて旅行会社スタッフにも参加をしてもらっている。有事の学内連絡体制・対応体制も整えて明文化している。

また学内での安全対策として、防災、防犯設備の点検や避難訓練の実施を行い、教員への周知徹底を図るとともに、通学時及び学校生活における事故に備えて、保険の加入を義務化している。設備については、法規で定められた定期的な設備点検を実施し、必要に応じて修繕・回収を行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

引き続き、インターンシップ等への事前教育や、定期的な設備点検等を実施し、適切かつ安全な教育環境の維持に努める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

学校のアドミッション・ポリシーを策定し、募集要項及びホームページに掲載。学校としての求める人材像（学生像）を明確化し社会に公表している。就職実績・資格取得実績については募集パンフレット、ホームページ上、オープンキャンパス時に配布するリーフレットにより適切に情報を発信している。募集活動においては募集要項に志願者が必要とする情報を提供できており、入学者選考も募集要項や県の指針に沿った、公正かつ適切な選考を実施している。学生納付金等も毎年、年初に検証を実施し、他の専門学校と比較しても妥当性のある範囲の金額を設定している。

【課題】

就職実績、国家試験、卒業生の活躍等の教育成果はパンフレット、ホームページに掲載しているが、最新情報のタイムリーな掲載や、主要資格検定以外の検定結果の情報公開には至っていない。

【今後の取組み】

最新の教育成果をホームページにて公表、オープンキャンパス時の各学科での学科紹介時に告知していく。特に就職実績に関しては継続的にタイミングの良い告知ができるような体制を整えていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	B
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

毎年、学校年間の予算作成を行い、毎月の予算執行状況は経理グループと共有、協力しながら管理を継続している。必要に応じて法人内で協議、検討し、適切な対応を行っている。貸借対照表からみて、収入と支出のバランスはとれており、法人としての財務状況は安定しており、教育設備の新設や改修等で学生の教育環境を維持できている。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

情報の共有を居範囲内（管理職以上の役職者等）で広げ、財務状況を把握できている人員を増やし、複数の視点でチェックできる体制強化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行うため、法人本部、他関連部署との連携を行い、学校単独で実施可能な事柄と部署間連携で進める事柄にわけ、学校を運営している。また、関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定についても、改定、変更が生じた場合は迅速に対応を行い、健全な学校運営を行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

各関係法令、及び各関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の改定、変更時の確実な整備と周知徹底を継続し、適切な運用を維持する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育・学校運営について毎年「自己点検・評価」を実施し、課題解決に取り組んでおり、その内容はホームページにて公開している。学内においても結果を教職員で共有し、次年度の活動に生かしている。また職業実践専門課程に基づき学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催し、学校の教育活動及び教育内容に関する検証を行っている。委員会における指摘事項は随時改善に取り組み、改善状況については内部監査にて検証されている。

【課題】

自己点検・評価の内容は、学内メールでの発信、教務会議等にて共有され、組織レベルとしては適切に機能している。しかし、個人レベルにおいては更に理解を深める必要がある。

【今後の取組み】

自己点検・評価、並びに内部監査の内容は随時教務会議にて共有し、活動の意義や必要性について教職員が理解を深められる体制を作る。また、教職員の自己点検・評価のレベルを均一化するために、委員選定を学科横断的に行い活動の浸透を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

学生のボランティア活動は推進委員会を設置し、学校教育内容の特徴を生かした連携を図りながら推進している。語学部門においては、学生主導による発展途上国への物資支援活動、製菓パティシエ科では地元社会福祉協議会へのボランティア活動、ブライダルウェディング科では学園祭での正月飾り販売・寄付など、社会貢献、地域貢献活動を積極的に行っている。また、若年層の職業観醸成のためのイベント「お仕事スタジアム」も、企業と連携し毎年開催し、専門分野知識を生かした支援を行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

引き続き学生ボランティアを積極的に推進し、学生の社会貢献・地域活動参加への支援を行う。学生それぞれの興味や関心に対応できるよう、NPO 法人やボランティア団体等と連携し、機会拡充に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の生活支援・ビザ申請手続き・在籍管理に関しては日本語教育センターが法令を遵守し適切に対応している。また、学生便覧に外国人学生規定を明文化し学生へ周知している。学生の海外留学に関しても、学生便覧に海外留学に関する規定を明文化し、学生へ周知している。海外留学運営に関しては、事業開発センターを中心として、留学先との連携体制の確立、教育の質の担保、安全対策等、教務と連携して各種サポートを行っている。

【課題】

特になし。

【今後の取組み】

留学生の多様化により、日本語能力を高める教育力向上、学生一人ひとりのニーズ（ビザ申請、アルバイト紹介、就職支援など）に合わせた対応ができる体制強化が必要となる。そのため学生課、日本語教育センター等と連携し、全教員の留学生対応に関する知識醸成を図ると共に、協力して学生に必要な支援を包括的に行う体制を確立していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S